

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2015年第38週
(9月14日～9月20日)

- * 2015年9月25日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「新興再興感染症の動向」も掲載しています。

平成27(2015)年9月28日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2015年38週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		35週	36週	37週	38週	年累計	38週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	69	58	61	82	2,657	372	17,502
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}								
三類	コレラ							3
	細菌性赤痢	1		2		45	5	116
	腸管出血性大腸菌感染症	20	11	7	12	285	133	2,898
	腸チフス					8		22
	パラチフス		1			6	1	25
四類	E型肝炎					19	3	141
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎			1	2	33	4	188
	エキノコックス症					1		9
	黄熱							
	オウム病							5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							3
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		2
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*4}						4	49
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					6		13
	つつが虫病					4		81
デング熱	6	4	4	5	66	10	210	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		35週	36週	37週	38週	年累計	38週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱		1			1	8	130
	日本脳炎							1
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症					2		4
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア		1			13		32
	野兔病							2
	ライム病					1		7
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽	1				1		1
レジオネラ症	4	7	3	3	96	44	1,128	
レプトスピラ症			1		6	1	12	
ロッキー山紅斑熱								

2015/9/25集計

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 82件 肺結核 46件、その他の結核 8件、肺結核及びその他の結核 3件、無症状病原体保有者 23件、疑似症 2件、年齢は5歳未満 3件、10代 1件、20代 15件、30代 7件、40代 10件、50代 12件、60代 9件、70代 7件、80代 16件、90歳以上 2件、推定感染地は国内 74件、パキスタン 4件、ネパール 1件、ミャンマー 1件、国内又は国外(渡航先不明) 2件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 12件 患者 6件、無症状病原体保有者 6件、血清型・毒素型はO26 VT1 1件、O91 VT1 1件、O157 VT1・VT2 3件、O157 VT2 7件、年齢は5歳未満 1件、10代 3件、20代 4件、40代 2件、70代 2件、推定感染地は国内 11件、国内又はフィリピン 1件、推定感染経路は経口感染 9件、経口感染又は接触感染 1件、不明 2件であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 2件 患者 2件、年齢は20代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 1件、国内又は国外(渡航先不明) 1件、推定感染経路は経口感染 2件であった。

デング熱 5件 患者 5件、病型はデング熱 5件、血清型は1型 1件、2型 1件、3型 1件、不明 2件、年齢は20代 3件、30代 1件、40代 1件、推定感染地はフィリピン 3件、バングラデシュ 1件、台湾 1件であった。

レジオネラ症 3件 病型は肺炎型 3件、年齢は60代 3件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は水系感染 1件(銭湯)、不明 2件であった。

※ 第37週該当分として〔三類〕細菌性赤痢 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2015年38週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		35週	36週	37週	38週	年累計	38週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	3	3	2	4	142	11	813
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	2		1		36	2	177
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *2	8	12	10	5	173	26	1,157
	急性脳炎 *1	1		1		34	2	363
	クリプトスポリジウム症					3		11
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1	19	5	134
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	1		49	8	319
	後天性免疫不全症候群	10	7	9	12	311	21	1,017
	ジアルジア症				1	15	4	56
	侵襲性インフルエンザ菌感染症			1		18		176
	侵襲性髄膜炎菌感染症					7		25
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	2	1	3	221	14	1,631
	水痘(入院例に限る) *2				4	37	6	222
	先天性風しん症候群							
	梅毒	22	24	25	31	723	37	1,758
	播種性クリプトコックス症 *2					8	1	87
	破傷風					1	1	85
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1		2		47
	風しん				1	26	2	130
麻しん					9		28	
薬剤耐性アシネトバクター感染症 *2					6	1	24	

2015/9/25集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*2 2014年9月19日より新たに追加指定された。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

（五類感染症）

アメーバ赤痢 4件 病型は腸管 4件、年齢は20代 1件、30代 1件、40代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は性的接触 3件（異性間 1件、性別不明 2件）、不明 1件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 5件 患者 5件、病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 2件、エンテロバクター・クロアカ 1件、シトロバクター・フロインディ 2件、年齢は70代 3件、80代 2件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は以前からの保菌 1件、不明 4件、90日以内の海外渡航歴は無し 5件であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 1件 古典型CJD、年齢は80代であった。

後天性免疫不全症候群 12件 AIDS 2件、無症候キャリア 7件、その他 3件、AIDS患者の年齢は30代 1件、50代 1件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 3件、30代 2件、40代 3件、50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 10件、国外(渡航先不明) 1件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 10件(同性間 8件、異性間 1件、両性間 1件)、同性間性的接触又は静注薬物使用 1件、不明 1件であった。うちその他の1件は、第38週に届出のあった早期顕症梅毒Ⅱ期と同一人物であった。

ジアルジア症 1件 年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染又はその他であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 3件 血清型は検査未実施 3件、年齢は5歳未満 1件、60代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は接触感染 1件、不明 2件、肺炎球菌ワクチン接種歴は7価3回接種済み 1件、不明 2件であった。

水痘(入院例) 4件 臨床診断例 3件、検査診断例 1件、年齢は10歳未満 2件、20代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、不明 2件、水痘ワクチン接種歴は1回接種済み 1件、不明 2件、無し 1件であった。

梅毒 31件 早期顕症梅毒Ⅰ期 10件、早期顕症梅毒Ⅱ期 14件、晩期顕症梅毒 1件、無症候梅毒 6件、年齢は10代 1件、20代 12件、30代 8件、40代 7件、50代 3件、推定感染地は国内 31件、推定感染経路は性的接触 30件(同性間 5件、異性間 18件、性別不明 7件)、不明 1件であった。うち早期顕症梅毒Ⅱ期の1件は、第38週に届出のあった後天性免疫不全症候群(その他)と同一人物であった。

風しん 1件 検査診断例、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

※ 第37週該当分として〔五類〕梅毒 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2015年38週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2015年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		35週	36週	37週	38週		
小児科	RSウイルス感染症	106	172	247	342	243	264
		0.41	0.66	0.95	1.41		
	咽頭結膜熱	96	95	86	62		
		0.38	0.36	0.33	0.26		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	288	368	378	395		
		1.13	1.41	1.45	1.63		
	感染性胃腸炎	839	982	969	956		
		3.28	3.76	3.73	3.93		
	水痘	56	46	54	94		
		0.22	0.18	0.21	0.39		
	手足口病	1,404	1,198	1,193	1,100		
		5.48	4.59	4.59	4.53		
	伝染性紅斑	107	141	107	103		
		0.42	0.54	0.41	0.42		
突発性発しん	178	181	159	176			
	0.70	0.69	0.61	0.72			
百日咳	3	9	8	5			
	0.01	0.03	0.03	0.02			
ヘルパンギーナ	319	289	249	229			
	1.25	1.11	0.96	0.94			
流行性耳下腺炎	106	80	94	71			
	0.41	0.31	0.36	0.29			
川崎病 *1	3	2	3	1			
	0.01	0.01	0.01	0.00			
不明発しん症 *1	52	49	57	51			
	0.20	0.19	0.22	0.21			
インフル エンザ	インフルエンザ *2	2	20	30	25	379	419
		0.00	0.05	0.07	0.07		
眼科	急性出血性結膜炎		1			35	39
			0.03				
	流行性角結膜炎	26	28	42	40		
		0.67	0.72	1.08	1.14		
基幹	細菌性髄膜炎 *3	2		1	1	24	25
		0.08		0.04	0.04		
	無菌性髄膜炎	1	5	3			
		0.04	0.20	0.12			
	マイコプラズマ肺炎	14	11	15	23		
		0.56	0.44	0.60	0.96		
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	3	6		2			
	0.12	0.24		0.08			
感染性胃腸炎(ロタウイルス) *4							
インフルエンザ入院				1			
				0.04			

2015/9/25集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 手足口病の定点当たり報告数は減少傾向にあるが、都の警報は継続している。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は5週連続で増加し、過去5年平均より高い値で推移している。
- ・ 流行性角結膜炎、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年平均を上回っている。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2015年38週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	22	1	1	14	1	12	2	3	2	2	1
6～11か月	68	5	4	70	3	132	2	59	1	27	
1歳	164	9	12	126	13	346	6	86		64	2
2歳	56	9	29	108	9	176	14	19		42	4
3歳	16	5	29	67	6	144	9	4		26	4
4歳	11	7	56	79	20	104	18	4		21	13
5歳	2	7	51	57	14	61	17			13	16
6歳	1	5	45	54	12	32	10	1		11	14
7歳	1	5	35	53	7	24	6		1	9	6
8歳			16	46	5	16	5			2	3
9歳		4	23	42	2	9	6			2	4
10～14歳		3	62	99	1	24	6			6	3
15～19歳			3	32		3					1
20～29歳	1	2	29	109	1	17	2		1	4	
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	342	62	395	956	94	1,100	103	176	5	229	71
先週比	95	-24	17	-13	40	-93	-4	17	-3	-20	-23

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		1			2						
6～11か月		5	1								
1歳		19	1		2			2			1
2歳		8	3								
3歳		4			2			3			
4歳	1	4	3		3			2			
5歳		1	1		2			2			
6歳								1			
7歳		4	1								
8歳			2					4			
9歳					1						
10～14歳		2	2		1	1		6			
15～19歳		1	4					1			
20～29歳		2	2		2						
30～39歳			1		10			2	1		
40～49歳			1		7						
50～59歳			3		3						
60～69歳					2						
70～79歳					3				1		
80歳以上											
合計	1	51	25		40	1		23	2		1
先週比	-2	-6	-5		-2		-3	8	2		1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数 【保健所別】 2015年38週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				1.00		3.00					0.67
中央区			0.33	5.00		7.33	0.33	1.67		2.00	
みなと	3.17		1.17	3.00		3.33		1.00		0.83	0.33
新宿区	3.25		1.50	1.88	0.25	2.25	0.38	0.38		0.50	0.13
文京	0.75		2.00	1.25	1.25	3.00	0.50	1.25		0.25	
台東	2.00	1.33	0.33	9.33		12.00	1.00			0.67	
墨田区	1.20		1.20	1.40	0.60	3.60	0.40	1.00		0.60	
江東区	2.22	0.33	1.22	4.78	1.67	6.78	0.22	0.89		0.89	0.89
品川区	0.29	0.57	1.29	4.00		2.14	0.29	0.57		0.57	
目黒区	1.80	0.80	0.60	1.80	0.40	4.20	0.20	0.80		2.00	
大田区	3.69	0.23	2.15	7.54	0.31	5.15		0.85		2.08	0.08
世田谷	2.09	0.45	2.82	5.55		4.91	0.36	0.91	0.09	1.27	0.18
渋谷区	0.50		0.25	2.50		1.50		0.75		0.25	
中野区	1.17	0.17	0.33	5.50	0.17	2.00	1.17	0.67		0.50	
杉並	0.18	0.09	0.82	4.55	0.18	1.91	0.18	0.45		0.09	
池袋	1.25		1.50	1.00		1.00		0.25		0.25	
北区	0.60			3.80		5.00		1.00		0.40	
荒川区	10.00	1.50	2.75	4.25	0.50	11.00	0.75	1.75		3.75	0.75
板橋区	0.20		0.30	2.70	0.20	3.50	0.40	0.10		0.10	
練馬区	0.46	0.31	1.38	2.54	0.77	3.00	0.15	0.77		0.38	0.23
足立	0.31	0.15	0.69	5.92	0.08	5.62	0.46	0.69	0.08	1.77	0.15
葛飾区	0.13		1.00	4.63	1.13	3.25	0.63	0.88		1.88	0.25
江戸川	0.56	0.33	1.33	2.56	0.33	2.44	0.33	0.67		1.11	1.33
八王子市	2.36	0.55	3.82	5.45	0.45	7.18	0.27	0.45	0.09	0.91	0.82
町田市			2.83	8.00	0.50	5.83	1.17	0.83		1.67	
西多摩	0.13	0.50	0.63	2.38	0.13	1.75		0.13		0.38	
南多摩	2.22		1.89	2.56	0.11	4.78	1.11	0.67		0.22	0.56
多摩立川	0.79	0.07	2.50	2.71	0.43	3.14	0.57	0.21		0.86	0.07
多摩府中	0.26	0.47	2.26	3.32	0.63	6.63	0.63	0.89	0.05	0.63	0.53
多摩小平	3.33	0.17	3.33	3.75	0.42	8.25	0.92	1.67	0.08	1.58	0.67
島しょ											
東京都	1.41	0.26	1.63	3.93	0.39	4.53	0.42	0.72	0.02	0.94	0.29

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			0.25								
中央区					2.00						
みなと			0.11			1.00		2.00	2.00		
新宿区		0.13	0.08		0.50			0.50			
文京					2.00						
台東											
墨田区		0.40						3.00			
江東区			0.14								
品川区			0.09		2.00						
目黒区	0.20	0.20									
大田区		0.15			2.00						
世田谷		0.36	0.11		1.00			0.50			
渋谷区			0.29								1.00
中野区		0.17	0.10								
杉並		0.18			3.00						
池袋			1.00		2.00			1.00			
北区			0.22								
荒川区			0.14		4.00						
板橋区					1.00			1.00			
練馬区		0.08	0.05		0.50						
足立		0.15			2.00						
葛飾区		0.38						7.00			
江戸川		0.44									
八王子市		0.27			1.50						
町田市		1.67									
西多摩								1.00			
南多摩			0.08		1.00						
多摩立川		0.29			1.00						
多摩府中		0.47	0.07		0.50			1.00			
多摩小平		0.17	0.05		2.00			1.50			
島しょ											
東京都	0.00	0.21	0.07		1.14	0.04		0.96	0.08		0.04

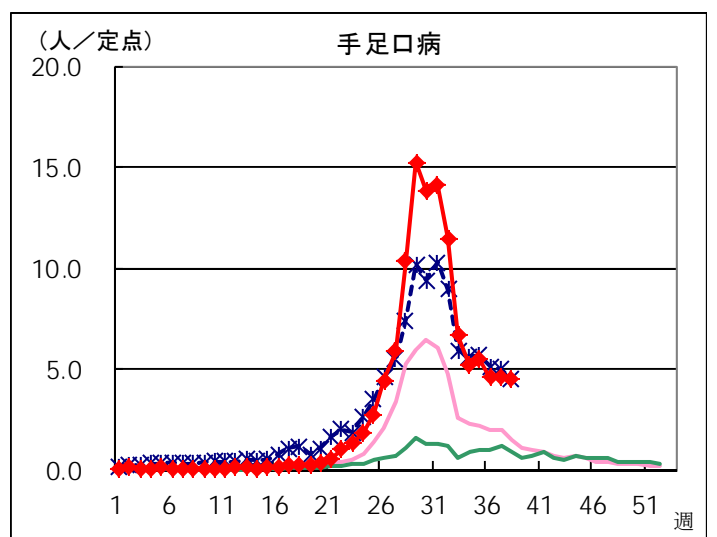
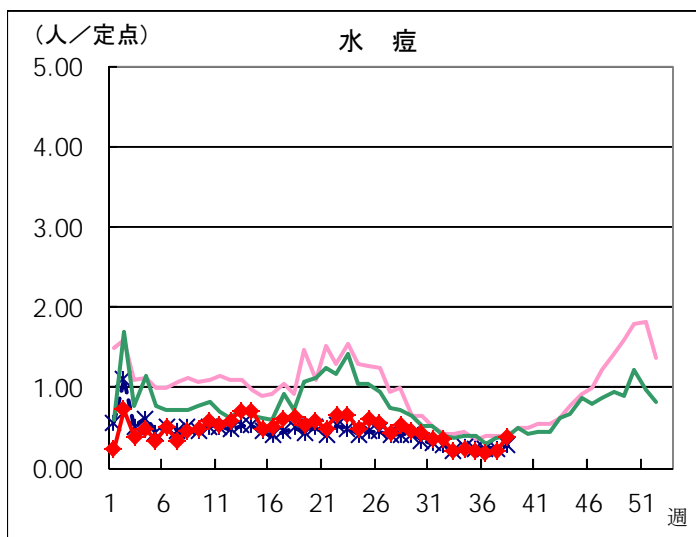
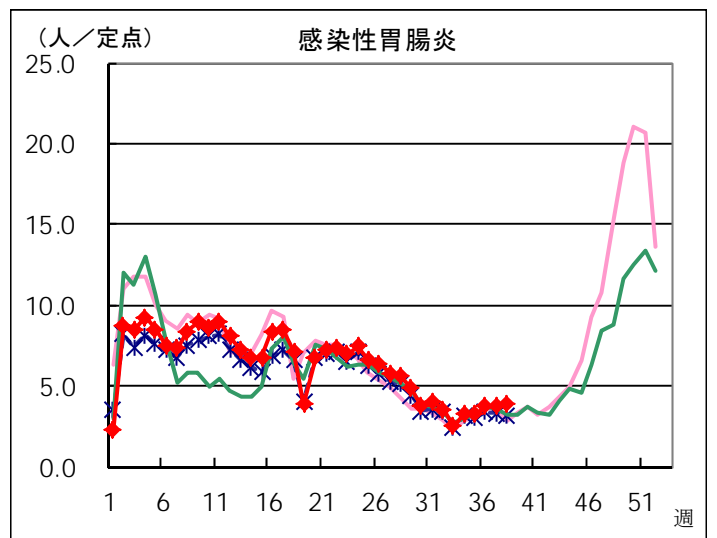
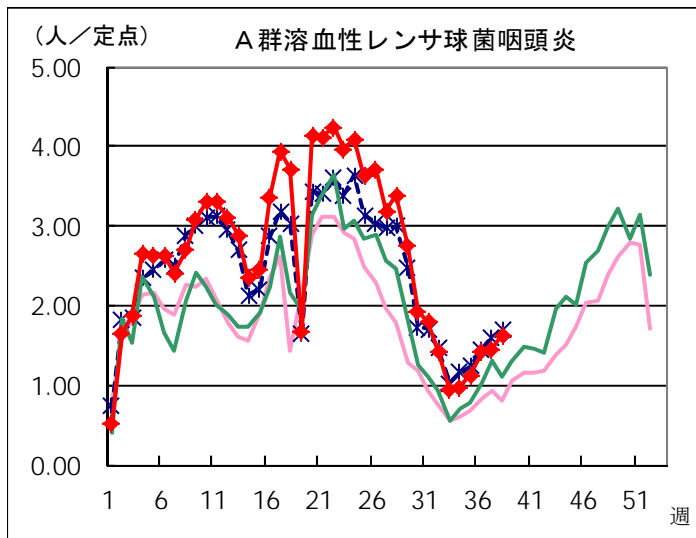
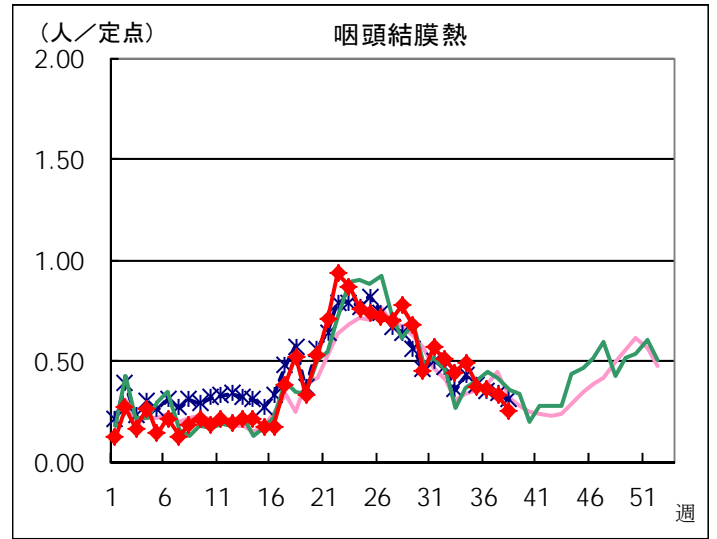
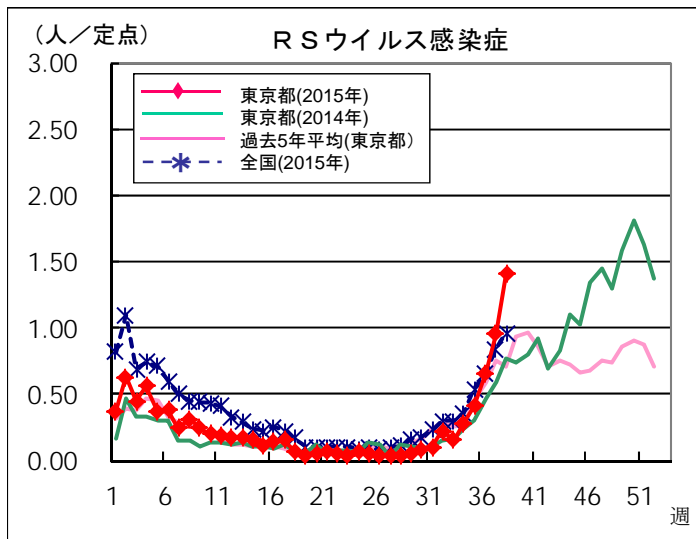
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2015年38週

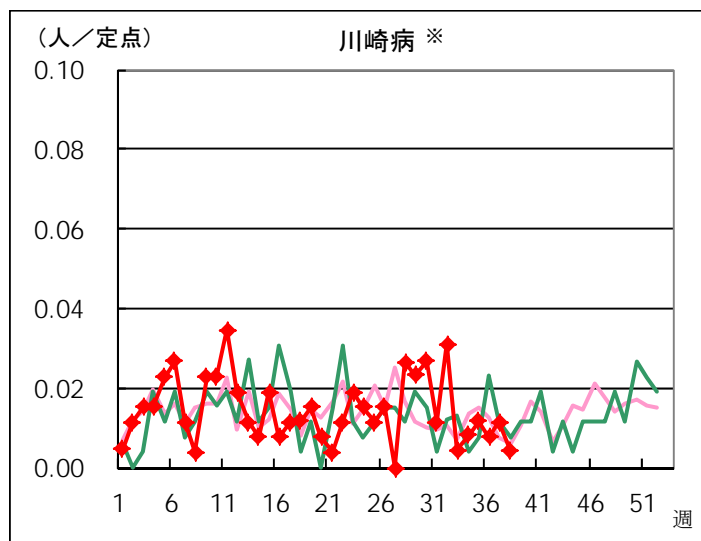
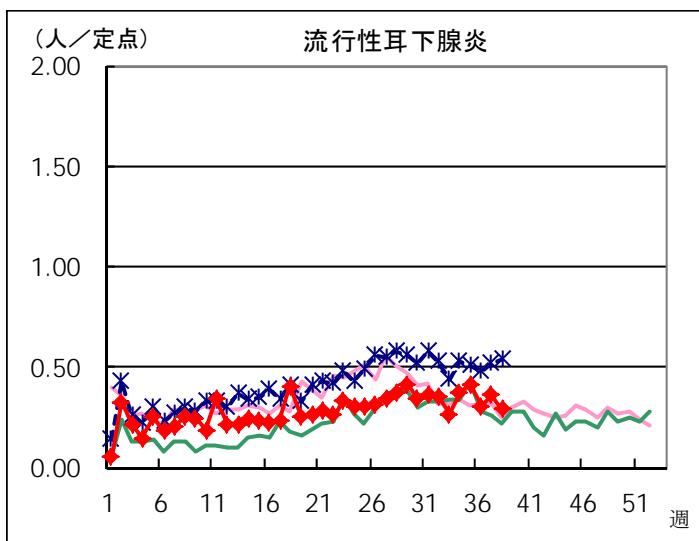
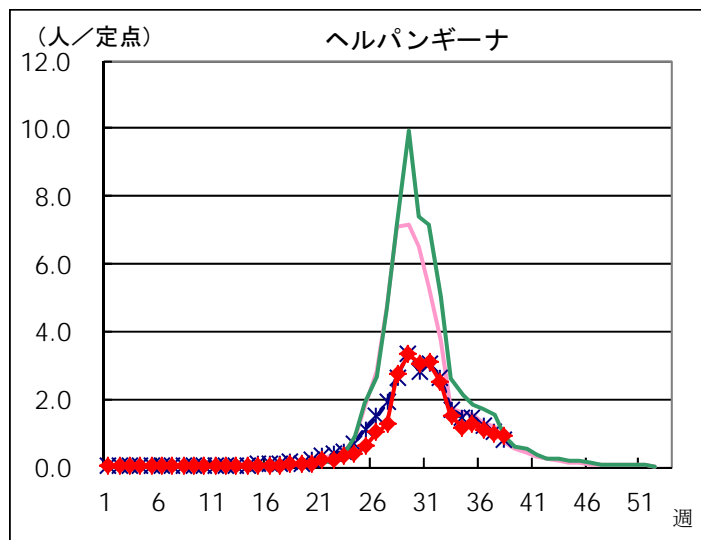
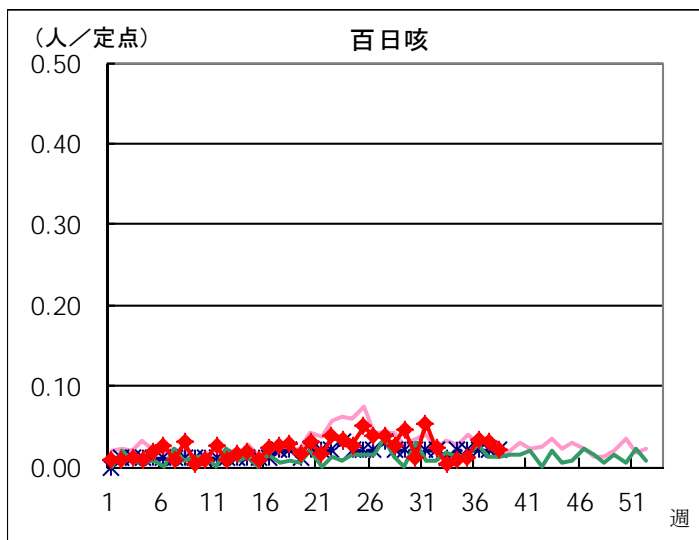
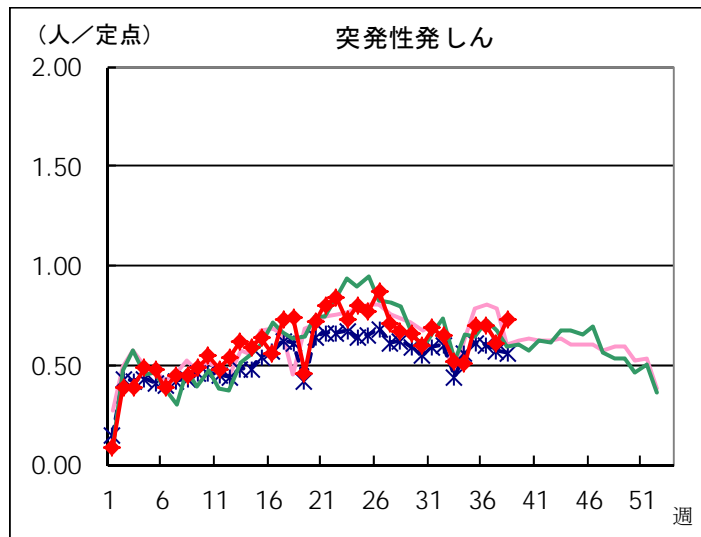
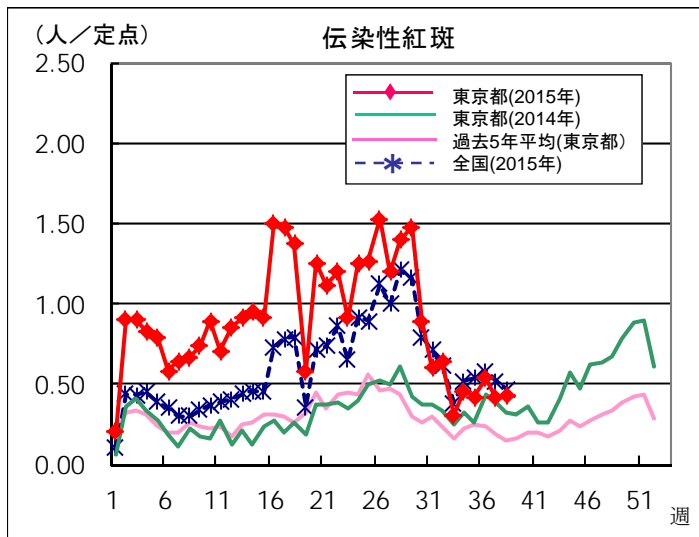
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				3		9					2
中央区			1	15		22	1	5		6	
みなと	19		7	18		20		6		5	2
新宿区	26		12	15	2	18	3	3		4	1
文京	3		8	5	5	12	2	5		1	
台東	6	4	1	28		36	3			2	
墨田区	6		6	7	3	18	2	5		3	
江東区	20	3	11	43	15	61	2	8		8	8
品川区	2	4	9	28		15	2	4		4	
目黒区	9	4	3	9	2	21	1	4		10	
大田区	48	3	28	98	4	67		11		27	1
世田谷	23	5	31	61		54	4	10	1	14	2
渋谷区	2		1	10		6		3		1	
中野区	7	1	2	33	1	12	7	4		3	
杉並	2	1	9	50	2	21	2	5		1	
池袋	5		6	4		4		1		1	
北区	3			19		25		5		2	
荒川区	40	6	11	17	2	44	3	7		15	3
板橋区	2		3	27	2	35	4	1		1	
練馬区	6	4	18	33	10	39	2	10		5	3
足立	4	2	9	77	1	73	6	9	1	23	2
葛飾区	1		8	37	9	26	5	7		15	2
江戸川	5	3	12	23	3	22	3	6		10	12
八王子市	26	6	42	60	5	79	3	5	1	10	9
町田市			17	48	3	35	7	5		10	
西多摩	1	4	5	19	1	14		1		3	
南多摩	20		17	23	1	43	10	6		2	5
多摩立川	11	1	35	38	6	44	8	3		12	1
多摩府中	5	9	43	63	12	126	12	17	1	12	10
多摩小平	40	2	40	45	5	99	11	20	1	19	8
島しょ											
東京都合計	342	62	395	956	94	1,100	103	176	5	229	71

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			1								
中央区					2						
みなと			1			1		2	2		
新宿区		1	1		1			1			
文京					2						
台東											
墨田区		2						3			
江東区			2								
品川区			1		2						
目黒区	1	1									
大田区		2			4						
世田谷		4	2		2			1			
渋谷区			2								1
中野区		1	1								
杉並		2			3						
池袋			6		2			1			
北区			2								
荒川区			1		4						
板橋区					2			1			
練馬区		1	1		1						
足立		2			4						
葛飾区		3						7			
江戸川		4									
八王子市		3			3						
町田市		10									
西多摩								1			
南多摩			1		1						
多摩立川		4			2						
多摩府中		9	2		1			3			
多摩小平		2	1		4			3			
島しょ											
東京都合計	1	51	25		40	1		23	2		1

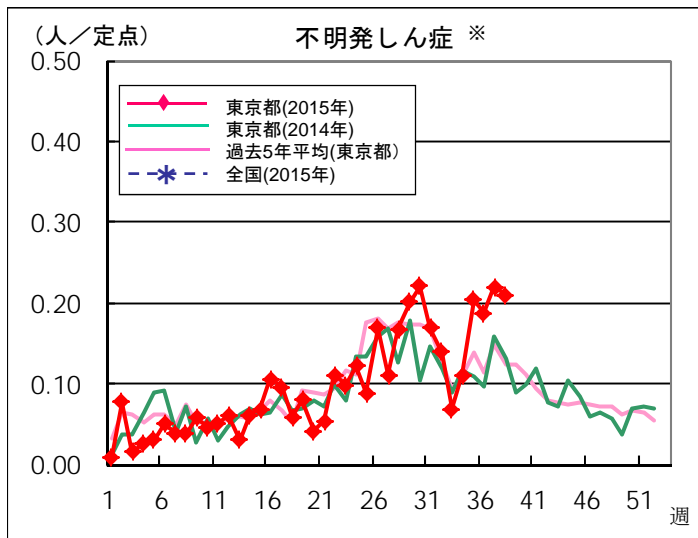
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2015年38週 現在)

◆ 小児科定点



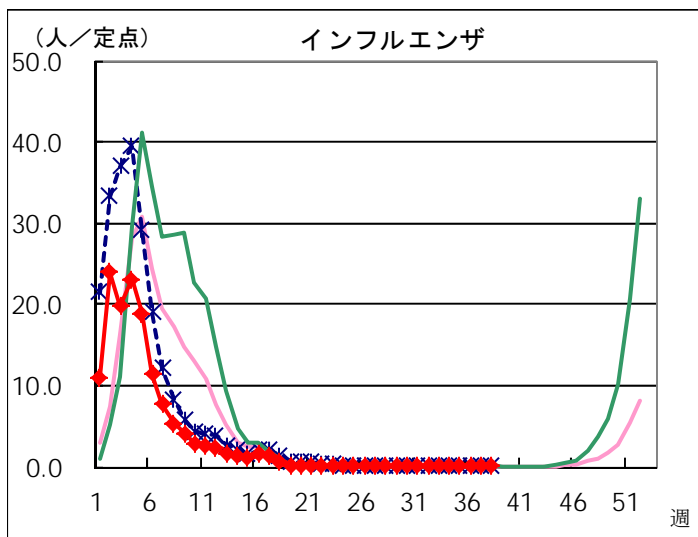


※ 東京都独自対象疾患

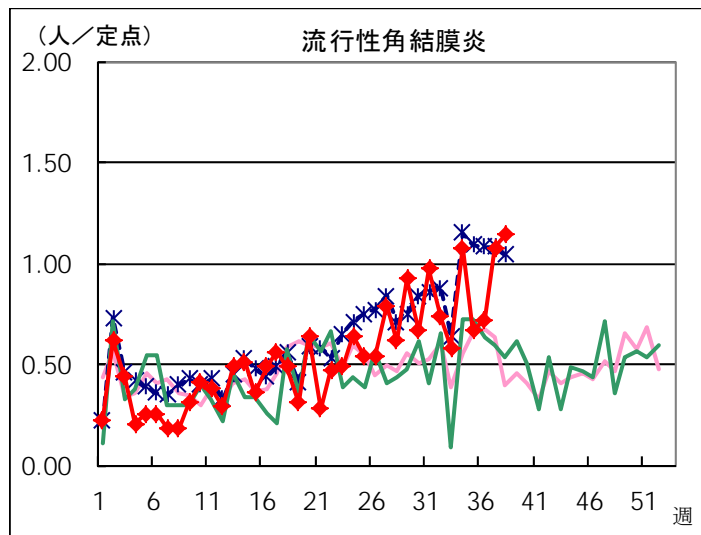
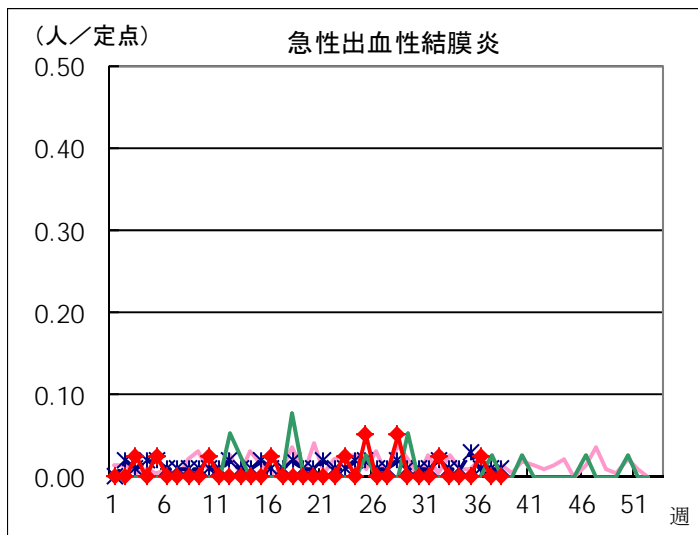


※ 東京都独自対象疾患

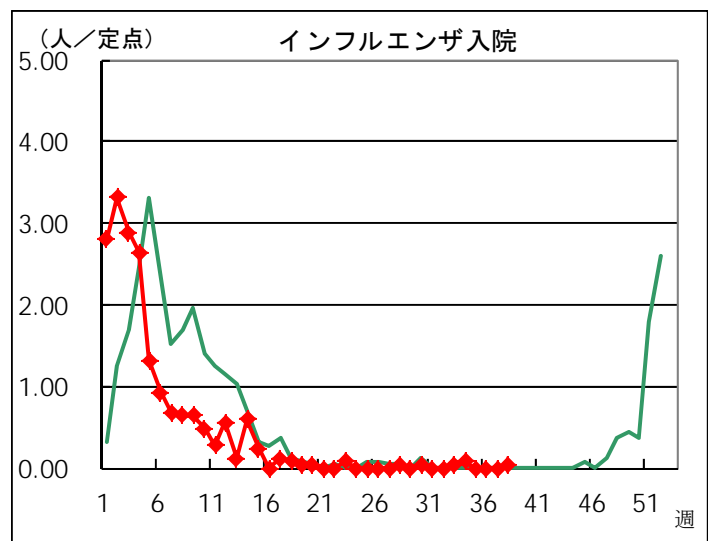
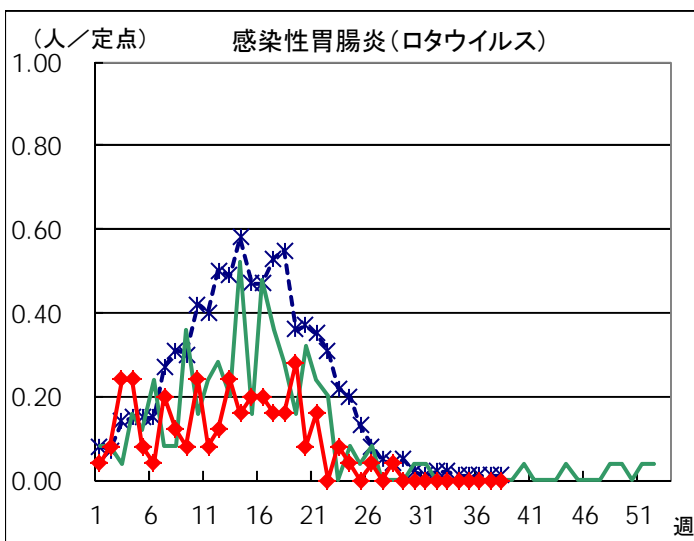
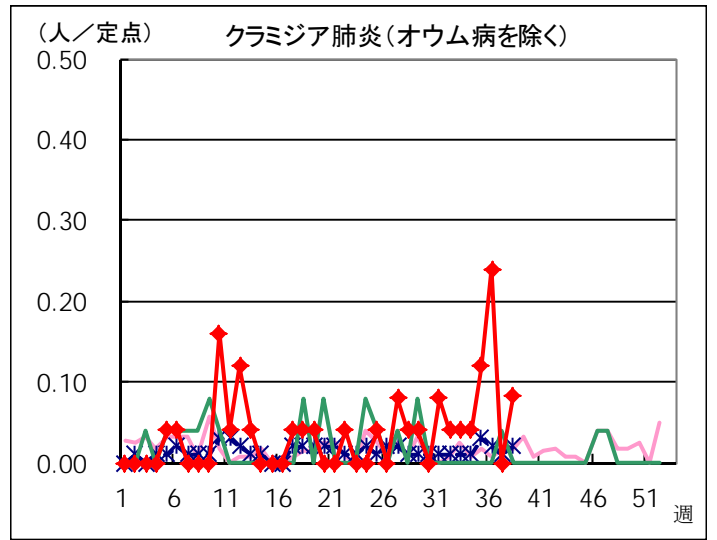
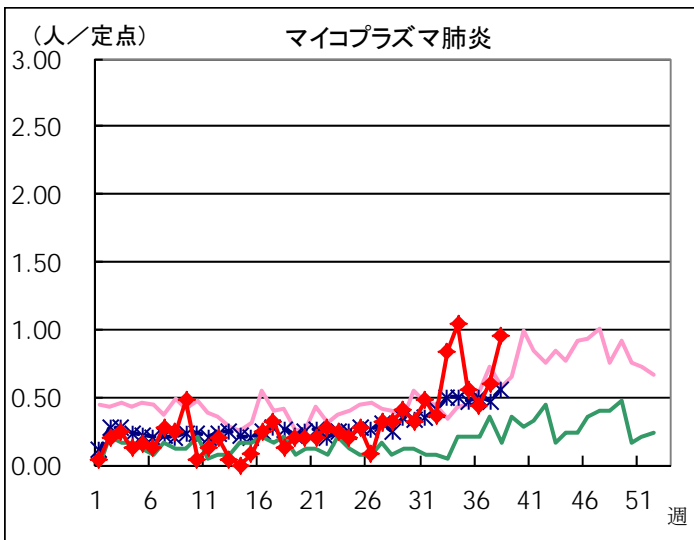
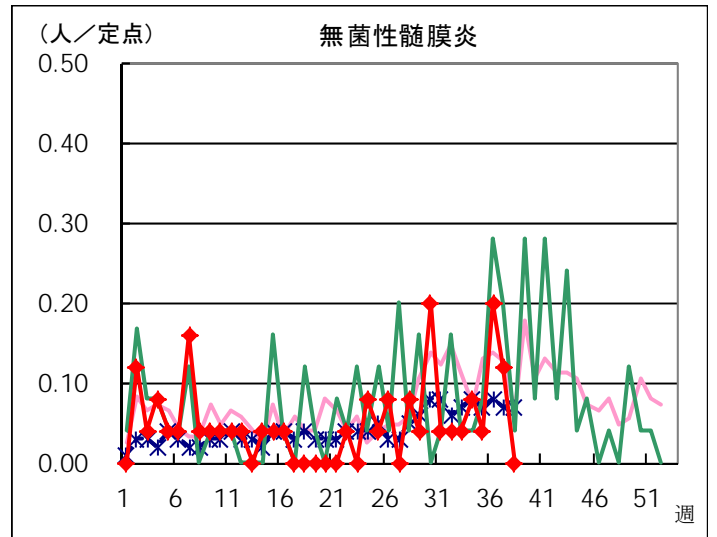
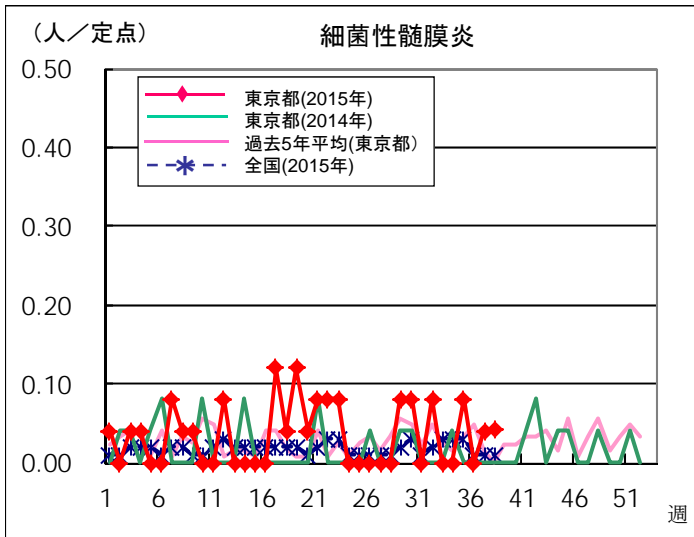
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
9/2	不明発しん症	5M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型
8/25	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型
8/27	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス 68型
8/30	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型
8/31	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス
9/3	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群16型
8/31	手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型
9/1	咽頭炎	3	咽頭拭い液	アデノウイルス エコーウイルス 3型
9/2	気管支炎	5	鼻汁	エンテロウイルス 68型
8/31	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
8/31	流行性耳下腺炎	7	咽頭拭い液	ムンプスウイルス

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2015年36週			1	
2015-2016年 シーズン累計*			1	

* 2015-2016年シーズンの開始は第36週(2015年8月31日～)

病原体検出情報 【週別】

検出病原体	2015年							
	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週
アデノウイルス	2	2	2	3			4	1
ライノウイルス	2	1	1	2				
ポリオウイルス								
コクサッキーウイルスA群	18	7	22	11	11	5	12	4
コクサッキーウイルスB群		1	1			3		
エコーウイルス	1	2		1	1			1
エンテロウイルス71								
その他のエンテロウイルス	1					1		3
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス								
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	1	1	1	2			2	1
EBウイルス								
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス					1	1	1	2
麻疹ウイルス								
風疹ウイルス				1				
ヒトパルボウイルスB19	1			1		2	1	
RSウイルス								
ノロウイルス	1							
ロタウイルス			1					
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型						1		1
インフルエンザウイルスB型				1				
インフルエンザウイルスAH1pdm09								
デングウイルス								
その他のウイルス		2						
その他の病原体		1						

病原体検出情報【臨床診断名別】

2015年29週～2015年36週

	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他
搬入検体数	18	15	8	11	41	7	8	13	77	4	33	10	1			5
アデノウイルス		5		2		3	4									
ライノウイルス	1	1	1						2							1
ポリオウイルス																
コクサッキーウイルスA群	1	4	1		1			12	64		5		1			1
コクサッキーウイルスB群	1				4											
エコーウイルス		1			5											
エンテロウイルス71																
その他のエンテロウイルス			1		2				2							
単純ヘルペスウイルス																
水痘・带状疱疹しんウイルス																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型											8					
EBウイルス																
サイトメガロウイルス																
ムンプスウイルス					1							4				
麻疹ウイルス																
風しんウイルス											1					
ヒトパルボウイルスB19										4	1					
RSウイルス																
ノロウイルス				1												
ロタウイルス				1												
インフルエンザウイルスAH1亜型																
インフルエンザウイルスAH3亜型	2															
インフルエンザウイルスB型	1															
インフルエンザウイルスAH1pdm09																
デングウイルス																
その他のウイルス				1	1											
その他の病原体				1												

<感染症豆知識>

新興再興感染症の動向

WHO は、新興再興感染症(emerging/re-emerging infectious disease)という概念を導入し、正しい把握と認識のためにすべての国において感染症サーベイランスを強化すべきことを決議している。

新興感染症とは、新しいあるいはそれまで探知されていなかった病原体の侵入によって初めて認識された感染症、新たに感染症であることが判明した既知の疾患、とされる。再興感染症とは、一旦コントロールされていた後あるいは非定型的な状況で再出現した感染症、場所や病原性を変えあるいは耐性を獲得し再出現した感染症、とされる。AIDS・C型肝炎・0157などの腸管出血性大腸菌感染症などが前者の例、結核・マラリア・デング熱・耐性菌感染症などが後者の例として挙げられる。

最近では、鳥インフルエンザ(H5N1)のヒト感染(1997～)、重症急性呼吸器症候群：SARS(2003)、新型(パンデミック)インフルエンザ(2009)、重症熱性血小板減少症：SFTS(2011～)、中東呼吸器症候群：MERS(2012～)、鳥インフルエンザ(H7N9)のヒト感染(2013～)、西アフリカでのエボラ出血熱(2014～)、と枚挙に暇がないが、幸いに国内で患者が発生したのは、2009年の新型インフルエンザだけである。SFTSは国内に存在していたウイルスであることが判明している。それではこれらの感染症は今後も国内への侵入の可能性は低いのであろうか。答えは明らかにNoである。これだけ人と物が短時間で大量に国際間を行き来している現代、むしろ侵入を前提にして備える必要がある。侵入阻止は極めて困難であるが、しかし拡大の防止は人の知と努力、そして正しい理解によって可能であろう。これまでは「発生に対しての対応」に追われていた感があるが、これからは、「発生に対するあらかじめの備えと早期検知」がさらに求められているところである。

(文責 川崎市健康安全研究所長 岡部 信彦)